

# 第1回第9期長野県高齢者プラン 策定懇話会等の意見要旨について

介護支援課

# 第1回懇話会での意見及び追加意見等の要旨

分類	構成員名	意見・要望の要旨	
高齢者の社会参加、生きがいづくりの推進	小林	・高齢者の社会参加について、早い段階で啓発していくことがとても重要である。	
	畑山	・介護業界は人手不足に悩まされています。賃金が上昇すると良いが、難しく、年老いても働きたいと思う方が少しでも増え、役に立てるような世の中に変わっていけば問題の緩和に繋がると考える。	
介護予防・フレイル対策の推進	小林	・フレイル予防について、早い段階で啓発していくことがとても重要である。	
	福島	・介護予防・リハビリ・体を動かす・社会参加等のフレイル予防をしっかり行うことが最も大切である。	
	高橋	・社会保障費増大の軽減を図る中の健康長寿のフレイル予防は重要である。	
地域包括ケア体制の構築	小林	・今の元気な方に、5年後や2040年に向けて自分たちで地域を作っていく意識を持ってもらうことが重要である。	
	高橋	・各市町村で地域包括ケアシステムの体系は出来上がっているが、具体策まで落とし込めていない。	
ヤングケアラーの等家族支援	小林	・ヤングケアラーがいる家庭を早い段階で発見し、関わっていくべきである。貧困・閉じこもりや、地域からの疎外が見落とされているケースがある。	
	萱津	・ヤングケアラーの早期発見については、教育委員会と連携し、他の児童や学生に知られずSOSを出せる相談支援体制の周知を、小・中・高校生に広く伝える。ヤングケアラー対策は、子どもたちの生活に、サービスを提供すればよいという考え方だけでは解決しない。ヤングケアラーである子どもたちの話を聞き、受容して信頼関係ができることが重要である。併せて、学校の教職員への周知、研修を行う。その相談支援を行うのは、担任や養護教員だけでなく、すでに学校との関係ができていての第三者としての、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを有効活用して欲しい。なぜならば、上記機能だけでなく必要な関係機関につなげるスキルを持っているからである。そのためには、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが長期に専門職として働き続けるために、待遇の改善も要望する。	
在宅医療・介護連携の充実	ACP	萱津	・身寄りのない高齢者や家族・親戚がいても支援が全く望めない高齢者が今後さらに増加することから、人生の最終段階において医師・看護師、介護支援専門員や入所施設の生活相談員等による人生会議（ACP）のさらなる周知と実施の強化を具体的に計画に入れて欲しい。全国の調査では、医師・看護師、介護支援専門員の約半数がACPについて知らないとか、実施していないという結果が出ている。人生の最終段階においても人としての尊厳を守り、関係者での協議により、本人の最善に近い医療・介護の提供の方法が導き出せるからである。なお、人生会議（ACP）等の用語説明も計画の中の欄外等に入れてほしい。
		溝口	・ACPという言葉や在宅医療の認知度が一向に上がっていない。今回の高齢者プランで認知度を上げてほしい。
		松本	・看護協会の支部では、住民に向けてまちの保健室や研修会等を行っている。多くの支部がACPの重要性を認識し、取り上げているが、なかなか浸透していない。デスクンファレンスといった形で、自分の役割の認識や次の看取りへの繋がりを、看取りに関わった人たちが振り返ることがとても重要と考えている。協会の訪問看護ステーションでは、住民向けに、在宅看取りについて平時にイメージをしてもらうために、訪問看護師や経験のある方による在宅看取り語りの場を始めている。在宅看取りに関わった人たちが経験を伝えていく重要性の感じている。
		小林	・お金や財産の管理、死に場所を含めて、自分の最期をどうするかを元気な段階からしっかりと考えられるように、ACPを住民へ啓発することが大事である。
		畑山	・私や主人に何かあった時にどうしたらいいか。子供達に迷惑をかけずに生活するにはどうしたらいいか。「今のうちにたくさん考えなくてはいけない」と感じました。私は介護業界に勤めていますが、人手不足に悩まされています。解決案として、賃金の上昇が一番楽だと思いますが、難しいです。なので、私のように年老いても働きたいとおもう方が少しでも増え、役に立てるような世の中に変わっていけば問題の緩和に繋がると私は考えます。
		福島	・医師に地域ケア会議や人生会議を実施いただいている。人生会議については若者への拡大を実施中で、手応えのある意見が出ている。

分類		構成員名	意見・要望の要旨
在宅医療・介護連携の充実	看取り	溝口	・人の最期については我々医療が引き受けることだと思っているので、在宅医療を含めたご高齢者に対するフォローアップについて、関係者間で連携が必要である。
		鈴木	・地域によっては、人材不足のため患者を含めた介護家族への総合的なケアがしきれていない。住み慣れた在宅で最期まで生ききるために、医師・看護師・ケアマネ・薬剤師・介護職の間で繋がりを作っておくべきである。 在宅で最期まで生ききるためには、中心となるケアマネジャーだけでは補いきれないので、地域包括支援センターも中心になるべきである。
		今井	・在宅死亡率には施設で亡くなった方も含まれているが、純粋に在宅で亡くなった方々がこの3年でどのくらいいるか、気になる。 包括報酬の複合型サービス（看護小規模多機能、定期巡回、通いと訪問の組合せ等）は、地域の方々やご家族がいらっしゃらない方には有効で、支えられるという事例も出てきている。第9期では、国が推す看護小規模多機能等の新しい点を鑑み、県としての施設の戦略的計画を立ててほしい。 生産人口が少ない中で一丁目一番地である人材の確保を視野に入れ、どうすれば在宅で看取れるかを考えていくべきである。
	医療人材	溝口	・診療と往診のバランスが取れなくなりつつある。往診の依頼が増えていること、医者が新規開業しても訪問診療を対象としていないこと両面が原因となっている。また、医者の高齢化が進み、対応しきれぬか心配である。
	連携システムの導入	小林	・医療と介護の連携については、どのような状況でもサービスを提供する方と主治医や訪問看護師の間で情報の共有がタイムリーに出来るシステム作りと、システム導入に対する県のバックアップが必要である。
		宮澤	・長野市・飯綱町では、複数の医者・ケアマネ・訪問看護師による情報共有の積み重ねで、在宅患者の気持ちの変化が見えるようになった。それも最期を迎える時の一つの考えである。
認知症施策の推進		荻原	・長野県民にとっては健康長寿がとても大事なことであり、80代、90代の元気な方々を手本として元気高齢者が増えていくように、WHO等の認知症予防ガイドラインを伝え、健康長寿の底上げをしたい。
		伝田	・認知症基本法案を県条例等まで落とし込んだものが出来ることを期待している。介護家族が社会から見捨てられていないという感覚を持ってもらうことが必要だと思うので、家族に支援が届くように具体的な方策をつくってほしい。 認知症基本法案では認知症の方の意思尊重を謳っているが、そもそも発言して意思を表明できる方は認知症ではないと思われるなど、認知症に対する住民の理解促進や啓発が足りていない。認知症の方が本当に住みよい社会であるか、疑問に感じる。 要支援1・2、要介護1の認知症の方は介護サービス、デイサービスともに使いにくい。要介護1で医者が認知症と認めたら長野県独自に上限額を取り払う等の大胆な制度が出来れば、家族は少し楽になると思う。
			・認知症基本法案は、出来て間もないこともあるが、県として受け止め方、どのように取り扱っていくかがとても関心がある。より実のあるものにしていくため、認知症基本法案の実行委員会など立ち上げていただき、多様なメンバーで話し合う機会をまず設けていただきたい。そこには、必ず当事者、介護家族を委員に入れてほしい。
介護人材の確保		渋谷	・認知症高齢者に対する理解が広まる活動（サロン活動等）の機会を増やし、介護を行う家族への支援についても次期プランに盛り込む必要があると考える。
		荻原	・医療・介護等高齢者を支える側の高齢化を感じている。
		萱垣	・介護サービスの充実が求められている、担い手となる介護人材の確保が年々厳しくなっている。是非この介護人材確保に向けた政策を強力に推進していただきたい。
		鈴木	・ICTを導入しても効率的に使えずかえって忙しくなることが起こりかねないので、上手に活用出来る中堅のリーダーの育成が最も大事である。また、県にはICT人材育成の後押しをしてほしい。
		鈴木	・介護福祉士や研修を受けた方だけでは足りない所や、民生委員が伺っても関わらせてもらえない所では、食事や入浴、周りの整理、会話等への協力の面で、介護補助やボランティアの活用を進めていくべきである。
		鈴木	・対象者別研修では、シニア世代向けの「仕事探し講座」「介護の世界」のような講座を設けて、働きたい元気な高齢者の生きがい探しをすることも人材確保につながるのではないかと。潜在介護福祉士の掘り起こしはあまり効果がなかったとの反省もあるが、引っかかってくることもある。ハローワークと協力して、行うことも考えていく必要がある。また、ボランティア講座を開催し、地域での介護補助的な人材を掘り起こしていくことも効果があると感じた。もちろん、学生ボランティアの地域での活用も必要。 介護事業の人材採用をサポートする事業の継続、アドバイザー派遣事業の継続も離職予防になる。各支部の人材センターの活動内容を明確に事業所に伝えるべきであり、活用していきたい。 また、介護福祉士の仕事を中学生、高校生、教員に正しく知ってもらうことで進路の参考になる。高齢者社会を支えていかなければならない世代に福祉の世界にはいる重要性を伝えることが未来につながる。積極的に学校へのミニ講座を開催すべきであり、教員にも研修の機会を設けていけばよいと思う。
		畑山	・働きたいと思っている人は居ても、自分にはできないという思い込みを持ったり、どこに行けば良いかわからないという状態にあると思う。介護業界への垣根を下げるために、どういう楽しさがあるか、どこに行けば良いか、等の情報発信をしてほしい。
		渋谷	・若者が福祉に関心を持つきっかけにするため、身近な福祉に触れてみる機会を増やすべきである。
	今井	・介護人材を確保するために更なる処遇改善（介護報酬）、人材育成・定着への支援をお願いしたい。	
	渋谷	・若者の持っている介護のイメージ（低賃金・重労働）を払拭し、福祉・介護分野への参加を促進するために、賃金を上げてほしい。	

分類	構成員名	意見・要望の要旨
災害・感染症対策	坂内	・災害等の有事の際は、事業者単体で解決できないことが発生するので、県と事業者団体が共同で取り組んだBCPの策定が重要である。
	小林	・市町村と事業者が連携を図りBCPを検証をする必要がある。
	小林	・市町村でリストアップした人への災害時の支援については、事業所とケアマネジャーと一緒に検討できると良い。
住まい・施設	萱津	・地域共生社会の実現という観点からの住まいと生活の一体的支援については、県の住宅基本計画でも、県社協のあんしん創造ねっとを活用し、身元保証・連帯保証人が必要なくなった。身寄りのない高齢者や家族・親戚がいても支援が全く望めない高齢者が増加することを考えると必要なことである。これを受けて、長野市と松本市の市営住宅についても条例改正があった。これを、全県の市町村に推奨して欲しい。
	小林	・複合型施設をつくっても人が集まらない状況であり、独居高齢者が増える状況ではそれぞれの地域に合ったシェアハウス等の住まいを充実するという考え方が出来ると良い。
	高橋	・持家の人が独居になると一人で暮らせなくなるので、アパートやサ高住等の色々な住宅形態について、住民の方がわかるような情報の整理と、暮らしの啓発をしていくべきである。
介護サービス基盤の整備	今井	・各地域において人口動態や介護ニーズと地域圏域においての事業所・事業者からの現行のヒアリングを行い既存の施設・サービス種別の変更なども含め県域において中長期的な計画的に沿って介護サービス基盤を再構築などを盛り込んで欲しい。 ・また、介護事業所をまとめて総括するのではなく、施設サービスと在宅サービス、地域密着型サービス、総合事業においてなど区分けて各地域圏域での実情を把握し（人材不足・利用者の動向など）人口動態や介護ニーズに基づく整備計画に反映し、無闇に新たな施設・サービス種別を作ることでの人材の流出や取り合いになることも勘案して欲しい。
	萱垣	・令和4年度において、電気・ガス代の大幅な高騰により、事業の運営に大きな影響が出てしまいました。県から若干の助成をいただきましたが焼け石に水の状態。 ・令和5年度も国からの助成が一部あるものの電気・ガスさらに燃料費の高騰もあり、運営に大きな影響が出ています。また、この国の助成も年度途中で終了の予定となっている。 ・介護サービス事業者は介護報酬で賄うしか方法がなく、他に転嫁して値上げするなどの方法がありません。是非、昨年以上の助成をご検討いただきたい。

## 第2回懇話会で県に説明を求めたいこと

分類	構成員名	要旨
介護人材の確保	渋谷	・介護のイメージアップを目指した諸活動の記載があったが、どのような効果を感じているか伺いたい。
在宅死亡率	今井	・第8期での在宅死亡率などの統計を教えてください（施設を含まず（特養・グループホーム・介護付き）家で亡くなった件数など）。家で最後を迎えた方のデータなどに基づき今後の地域圏域の医療介護のあり方などを検討していただきたい。
生活支援コーディネーター	今井	・各圏域での活動内容（比較が出来てモデルになり得る活動など）を可視化したものを教えてください。 第1層・2層のコーディネーターの委託法人など含め実績の確認ができるものがあれば教えてください。
介護給付など対象サービスの充実・強化（資料2 P.5）	伝田	・在宅介護の方向性で、比較的新しいサービスに力を入れるようだが、一番ボリュームのある既存のデイサービスを強化する、底上げなどをする方が、量が多いだけに効果はあるのではないか。
伴走型支援（資料3 P.21）	伝田	・どのような事例や量的なものが行われているのか。課題になっているものはなにか。
その他高齢者実態調査	松本	・高齢者実態調査の結果については、そこから貴重な情報や意見が見えてきましたが、計画以外にどのように活用しているのか、活用していく予定を含めて教えてください。